

『三池 終わらない炭鉱の物語』

熊谷博子監督作品

11/2 (土)

13:30～(開場13:00)

嘉穂劇場

11/3 (日)

1部 11:00～(開場10:30)

2部 15:00～(開場14:30)

田川市美術館

前売券 1,000円 当日券 1,300円

前売券取扱 嘉穂劇場・田川市美術館

※お問い合わせ 田川市美術館 TEL 0947-42-6161

作兵衛さんと 日本を掘る

炭坑画家・山本作兵衛

未来へ突き抜ける
炭鉱力。ゴットン。



〈共催〉 筑豊で作兵衛さんを上映する会 田川市美術館 田川市立図書館

〈後援〉 飯塚市教育委員会 田川市教育委員会 一般社団法人 飯塚観光協会 一般社団法人 田川広域観光協会

〈協力〉 作兵衛(作たん)事務所 嘉穂劇場 NPO法人こどもと文化のひろばわいわいキッズいづか 飯塚市立図書館



1964年、オリンピックの喧騒を遠くに感じていた労働者の見た風景は、 2020年、変わっているのだろうか？

熊谷博子監督作品

作兵衛さんと日本を掘る

出演：井上富美、井上忠俊、緒方恵美、菊畑茂久馬、森崎和江、上野朱、橋上カヤノ、渡辺為雄

2018/日本/111分/DCP/ドキュメンタリー ©2018 オフィス熊谷 www.sakubeisan.com

熊谷博子監督によるトークイベント＆サイン会 ※各上映後



2011年5月25日、名もない炭坑夫の描いた記録画と日記697点が、日本初のユネスコ世界記憶遺産になった。暗く熱い地の底で、石炭を掘り出し運ぶ男と女。命がけの労働で、この国と私たちの生活を支えた人々の生々しい姿である。

作者の山本作兵衛さん（1892-1984）は、福岡県の筑豊炭田で、幼い頃から働いた生粋の炭坑夫だ。自らが体験した労働や生活の子や孫に伝えたいと、60歳も半ばを過ぎてから本格的に絵筆を握った。専門的な絵の教育は一度も受けていない。そして2000枚とも言われる絵を残した。

作兵衛さんが炭鉱の記録画を描き始めたのは、石炭から石油へというエネルギー革命で、国策により炭鉱が次々と消えていくさなかであった。その裏では原子力発電への準備が進んでいた。作兵衛さんは後の自伝で「底の方は少しも変わらなかった」と記している。その言葉から半世紀。作兵衛さんが見続けた「底」は今も変わらず、私たちの足元に存るのではないのか？

作兵衛さんの残した記憶と向き合い、その絵さながらに働いた元おんな坑夫の人生や、作兵衛さんを知る人々の証言を通じ、この国の過去と現在、未来を掘る！ゴットン！

監督の言葉

熊谷博子

当時の炭鉱の姿ではあるが、私には、そのまま現代に思えた。中に描きこまれた労働、貧困、差別の問題、戦争への記述、共働き坑夫の家事労働に至るまで今と同じだ。特にエネルギー産業の労働構造は、完全に重なって見える。前回のオリンピックは1964年。首都圏が好景気に沸く一方で、筑豊には失業者があふれていた。作兵衛さんをめぐる人々が語る、今につながる炭鉱の意味。作兵衛さんと、絵の中の名もない人々とともに日本を掘りたい、と切に思った。

朗読：青木裕子（軽井沢朗読館）

ナレーション：山川建夫

撮影：中島広城、藤江潔

VE・美術：奥井義哉

照明：佐藤才輔

編集：大橋富代

映像技術：柳生俊一

音楽：黒田京子（作曲・ピアノ）、喜多直毅（ヴァイオリン）

MA：小長谷啓太

配給協力：ボレボレ東中野

宣伝：リガード

グラフィックデザイン：小笠原正勝

協力：作兵衛（作たん）事務所

撮影協力：田川市石炭・歴史博物館

嘉麻市教育委員会

福岡県立大学

企画協力：RKB毎日放送

助成：文化庁文化芸術振興費補助金

製作・配給：オフィス熊谷

協賛



田川ライオンズクラブ

〒825-0002 福岡県田川市大字伊田3494-1 TEL: 0947-44-4870

広告代理店

プランニングエン

tel, 0948-25-1933

http://planningen.com



株式会社
TRC図書館流通センター

〒112-8632 東京都文京区大塚三丁目1番1号 TEL 03-3943-2221

a.d.f 株式会社

〒826-0041 田川市大字弓削田864-8 TEL 0947-49-1288